

DXで広がる 大学の可能性

まとめ



DXとは、平たく言うと、データやデジタル技術を活用することによって、「さまざまなものをつなぎ、これまでやりたくても実現が難しかったことを可能にする」ことだと言換えることができよう。少子化の中、企業はもとより大学も、ここで新時代に向けてかじが切れるか否か、まさに生き残りをかけた変革、それがDXではないか。

キーワード

これまで

デジタル化による可能性

対象	国内の若者	卒業生、社会人、他地域、世界へと広げることで「市場の拡大」
授業形態	インプット中心	アウトプット中心の「学修者本位の教育への転換」
授業形式	全体最適化	個別最適化により、「学習効果の向上」
教育リソース	自前で用意	外部コンテンツも活用し、「最適な学習コンテンツの構築」
産学連携	研究中心	教育での連携も進め、「社会で求められる人材育成」 「教育プログラム開発の時間、コスト軽減」
学生データ	紙、属人的な状態／ 部局ごとの管理	データ化し全学で活用する 「エンロールメント・マネジメントの推進」